

第63回フランクフルト自動車ショー

環境対策車の競演と超弩級高級車の華

—— Internationale Automobil Ausstellung 2009 ——

解説・藤本 彰

エコカーに本気のドイツ勢

9月15日から27日まで、メディアデイを含めて13日間、フランクフルト市の国際見本市会場で第63回 IAA (Internationale Automobil-Ausstellung) が開催された。リーマン・ショックで参加国・企業が減少したかには見えただが、開催規模は前回とほぼ同じ。部品メーカーに不参加が多かったものの30カ国781社が出展して、おそらくは2009年の最も賑やかな自動車ショーを展開した。

GM、フォード・オヴ・アメリカ、クライスラー、日産、ホンダ、三菱、ダイハツ、いすゞの出展はなかったが、EU 勢や EV 新興勢力が大きなブースを構えて

話題作は豊富だった。内容を端的に表現すればエコカーの競演にスーパーカーが華を添えた印象。

プレゼンテーションのトップはBMW グループ。11号館1階を占拠してBMW ブランドのすべてをバンクしたコースで走らせ、エコ時代のファン・トゥ・ドライブを強くアピールした。このショー最大の華と思われたのが、ライトホーファー会長自ら運転して登場したプラグイン・ディーゼル・ハイブリッド・コンセプトの“ヴィジョン・エフィシエンシー・ダイナミクス”である。斬新なボディ・デザインが報道陣を釘付けにしていた。

一方ダイムラーは前回ほどの華やかさはなかった



BMW



BMW Vision Efficient Dynamics (Exterior & Interior)

が、AMGで全面的に開発された復刻版300SL ガルウイング“SLS AMG”を初公開した。このほかにS500 プラグインHVやE63 スポーツワゴン AMG、1月のデトロイトで発表したブルーゼロの発展型、E-CELL プラスなどが展示されていた。次世代Bクラスと噂される2010年発売予定のプラグイン・ハイブリッドカーである。前回注目されたディーゼルトロー・エンジンの進展は残念ながら見られなかった。

アウディは“e-tron”クワトロEVはじめ新型R8スパイダーやA4クリーンディーゼル・クワトロ、A4フレックス・フューエルなどのエコ・スポーツモデルを展示したが、デザインは保守そのもの。

超低燃費で話題になったのはVW L1ブルーモーションである。2気筒800ccのディーゼル・ハイブリッド・システムを搭載、炭素繊維強化樹脂ボディの車体は重さわずかに380kg。前面面積を減らすためタンデムシートとしたスリムなボディはCD=0.195。欧州複合モードで72.46km/ℓ。燃料タンク容量は10ℓながら条件さえ良ければ航続距離670kmとか。次世代VWコンパクトの研究課題“Up!”シリーズでは“E-Up!”が展示された。大人3人、子供1人が乗車できるEVである。家庭用230Vで5時間充電、130km走破する。

リーマン・ショックに災いされてVWを吸収しそこなったボルシェは、高性能セダンのパナメーラをはじめ911シリーズやカイエンを並べ、ミヒヤエル・マハ特新社長は、これらのハイブリッド仕様の発売が近いことを示唆し、将来にはボルシェもEVのスポーツカーを生産することを意思表示した。

カナダの里親マグナに引き取られることが決定したオベルは、GMヴォルトとコンポーネンツを共有するPHVのアンペラを2011年には発売する模様。ジャガーやボルボを手離して身軽になったフォード



Mercedes-Benz E-CELL Plus



Audi e-tronAudi e-tron



VW L1



VW E-UP



Opel AMPERA



Ford C-MAX



Mercedes-Benz SLS AMG



Trabant nT (Exterior)



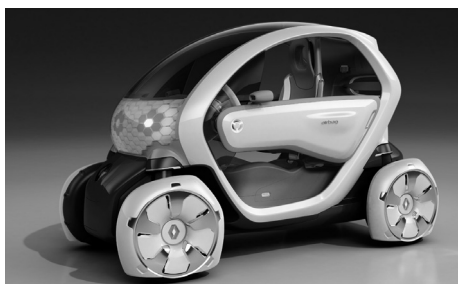
Trabant nT (Interior)



Peugeot BB1



Citroën REVOLTE



Renault TWIZY Z.E



Renault ZOE Z.E.



Lexus LF-Ch

はフォード C-MAX に最も力を入れていた。

異色のニューカマーはEVのトラバント nT である。ミニチュアモデル・メーカーのヘルパ社が2年前に構想したプロジェクトが実現、航続 130km のEVコンセプトを出展していた。かつての東独の大衆車、黒煙もくもくのトラバントがグリーンカーとして再生するストーリーはすでに販売中のミニチュア・モデルだけに終わらせたくないものだ。

フランスからはプジョーがコンセプトカーの BB1、量産型 RCZ、三菱 OEM の iOn その他、シトロエンがHVコンセプト“レヴォルテ”、発売間近い DS3 とCクロスサー、ルノーはEVコンセプトカー4車を並べた。1人乗りのトゥイジー ZE、4人乗りのZoe、ファミリーカーのプリュエンス ZE、商用車カンゲー ZE。いずれも次世代車の造形研究である。

イタリアやスペインのカーメーカーからはめぼしい提案がなかった。

ドイツ自動車工業界は様々なゼロ・エミッション対策を模索しながらも実態が見えにくく、トヨタやホンダに後れを取ったことを非難されてきたが、ようやく具現化の方向性が明確になってきたようだ。

高級スポーツカーもゼロ・エミッションに

日本勢の新作では、トヨタがプリウス PHV、オーリス・フルハイブリッド、レクサス LF-Ch (ハイブ



Mazda MX-5 Superlight Version



Hyundai ix-METRO



Lamborghini REVENTON Roadster

リッド・コンパクト)を出展、マツダはロードスター 20 周年を祝う MX-5 スーパーライト・コンセプトカーを初公開、スバルはヨーロッパ市場に投入されたばかりのレガシィとアウトバックにディーゼルトーボ仕様を追加、スズキは SX-4、スイフト、スプラッシュなどを出展した。しかしこれらの展示車の存在感の薄かったこと。心意気の差が展示コストの違いにそのまま反映されていたようである。

韓国はヒュンダイがコンパクト SUV のハイブリッド・コンセプト ix-METRO、PHV コンセプト・モデル“ブルーウイル”のほか 2010 年に市販予定の小型ハッチバック 10 の EV 仕様、キアが SUV ソレントのハイブリッド仕様を初公開した。

高性能高級車が目立ったことも第 63 回 IAA の特徴である。フェラーリ 458 イタリア、ランボルギーニ・レヴェントン・ロードスター、メルセデス・ベンツ 300SLR、ロールスロイス・ゴースト、アストンマーティン・ラピッド、マセラティ・グランカブリオなどのほかに、ヴィーゼマン、ブラバス、マンソーリ、メルクスなどのチューナーによる高級車、ロシアからは 2008 年にこの分野に参入してきたマルシアが新作スーパーカー B2 を公開した。興味深いのはこれらの高性能車がどの程度エコ対策するかである。



Mercedes-Benz SLR



Rolls-Royce GHOST



Aston Martin RAPIDE



Wiesmann Roadster MF5



Ferrari 458 ITALIA



Marussia B2